



7保連第1号 (令和7年11月)
発行：宇治市乳幼児教育・保育支援センター
アドレス：nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp



乳幼児教育・保育推進事業 通信
～令和7年度 保幼小連携専門部会～



令和7年9月5日（金）に、令和7年度第1回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会 保幼小連携専門部会を開催いたしました。
部会の様子をお知らせします。



令和7年度第1回の主な内容

- 1.部会員自己紹介
- 2.専門部会について
- 3.検討
 - (1) 架け橋ブロック会議の実施状況を踏まえた保幼小連携の進め方等について
 - (2) 架け橋期カリキュラム作成に向けた手引きについて



専門部会とは

「保幼小連携」「研究・研修」「発達・子育ての支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したもの。



○検討（現状の把握と課題の抽出・課題に対する対応策の検討）

（１）架け橋ブロック会議の実施状況を踏まえた保幼小連携の進め方等について

- 取組みを進めるために予算が必要
- 交流事業の打合せやカリキュラム作成等において、チームス等のデータ共有システムがあればいい
- 施設数が多いブロックは日程調整だけでも大変である。
- カリキュラム作成については、ハードルが高いと感じられている様子があるが、作成を通じてつながっていききたい
- 担当になった先生や1年生の先生は意識を持っているが、学校全体に広めることが課題である。

（２）架け橋期カリキュラム作成に向けた手引きについて

- 「架け橋期のカリキュラム」は、もっと簡素化したものの方が良い。
- カリキュラムは、作成することが目的ではなく、「お互いにどういう子どもを育てていきたいか」ということを、就学前施設と小学校で一緒に話し合って「めざす子ども像」がぶれないように作っていくプロセスが大事である。
- 事務局の連携ファイルの案は、今年度のブロック会議のレジュメよりも分厚くなっており、もっと簡素化した方が良くと思う。



宇治市乳幼児教育・保育支援センターとは

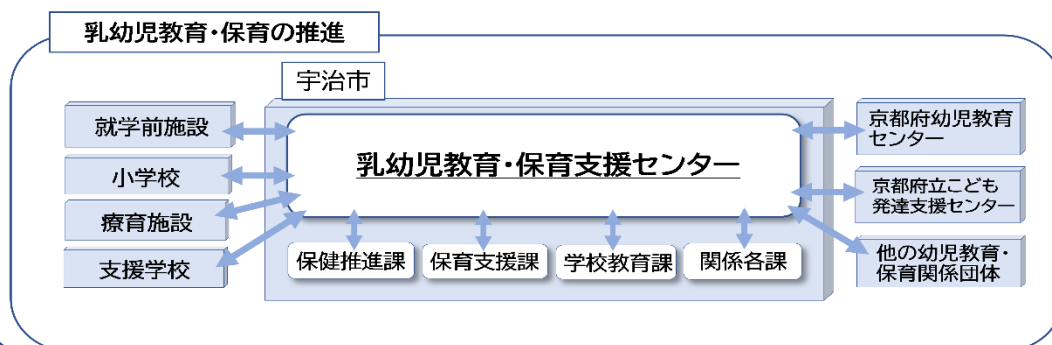
宇治市乳幼児教育・保育支援センターは、全ての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築し、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有するとともに、将来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、次の3つの機能に基づく施策を推進することにより、保育士、教諭等の人材育成を図り、もって乳幼児教育・保育の質の向上に資することを目的として、令和7年4月に開設しました。

<3つの機能>



宇治市では、センターにおいて、就学前施設、小学校、療育施設及びその他の関係機関が連携・協働できるようコーディネートすることにより、施策を推進します。

<連携・協働のイメージ>



宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、設置したものの。